




発行所
 社会福祉 長野県身体障害者
 法人福祉協会
 長野市中御所岡田98-1
 TEL 026 (228) 0317
 mail: info@nagasin.sakura.ne.jp
 編集発行人 小林 和夫



県身障協バッチ

新春を迎えて

長野県知事 阿部 守一



新年明けましておめでとうござい
 ます。謹んで新春のお慶びを申し上
 げます。県民の皆様には、旧年中、
 県政の推進に対して格別の御支援、
 御協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年新型コロナウイルスとの闘いの一年となりました。県内でも幾度となく感染の波に見舞われましたが、この間、救える命が救えなくなる状況を招くことなく、乗り越えてくることができたのは、ひとえに医療・介護従事者をはじめ新型コロナウイルスと闘っていただいている皆様の御尽力と、県民・事業者の皆様の御理解・御協力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

新年のあいさつ

理事長 小林 和夫



新年あけましておめでとうござい
 ます。皆様には健やかに新年をお迎
 えの事とお慶び申し上げます。令和
 元年から悩まされてきた、新型コロ
 ナウイルス感染症の蔓延は、第七波
 が昨年十月に入り全国的に下火の状
 況が見えてきました。しかし、この落ち着いたコロナの
 状況の継続を願ったのも虚しく、下旬には感染者の増加
 が見え始め、更に第八波の予報の外に今冬のインフルエ
 ンザの大発生までも心配されています。各感染予防には
 基本の厳守をお願いします。

昨年度に続き今年度も、コロナ感染症蔓延の影響を受
 け、多くの皆様にご協力を頂いていた福祉大会を始め、
 予定した各事業が軒並み中止せざるを得ない状況に陥

今年の4月からは、次期総合
 5か年計画が始まります。計画
 の基本目標として、「確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る」を掲げたいと考えています。これには、新型コロナウイルスや物価高騰、気候変動とそれに伴う災害の激甚化、少子化や担い手不足など、かつてない危機的な状況を克服し、県民の皆様の命と暮らしを守るとともに、物質的にも精神的にも満たされた、真にゆたかな社会をこの信州から創っていくとの強い想いを込めています。

今年の干支は「癸卯（みずのと・う）」となります。次の新たな生命が成長し始めている状態を意味する「癸」と、うさぎのように跳ね上がることを意味する「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するようになる年とも言われています。信州にとつて飛躍の年となるよう、次期総合5か年計画のスタートとともに新たな施策を始動させ、県民の皆様と信州の未来の姿を共有しながら、共に取り組んでまいります。

結びに、今年一年の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

り、誠に残念であります。会員の皆様には、大変なご迷惑とご不満をお掛けしており、申し訳在りません。何卒のご理解をお願いいたします。これまで三年間、皆様からのコロナ感染の報告に接する事なく経過した事は誠に有難く、会員皆様の熱心なご努力と感染防止への御協力に敬意と感謝を心から申し上げます。

さて、私達が長年要望を続けて来た、障害者が生活し易い社会環境を実現するための「県条例」が漸く令和四年四月一日施行に成りました（一部十月一日）。しかし条例は、制定をするのが目的ではなく、それは真に実効性の伴った条例を作る事です。その為には私達は勿論、為政者、県民の皆様等々所謂社会に「県条例」が深く浸透して、皆様に条例が広く理解される事が何よりも大切な事であり、「県条例」が社会に深く浸透する為に、何卒皆様のご協力をお願いします。

結びに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和4年度知事・理事長表彰受賞者名簿

知事表彰

○社会福祉表彰―障がい福祉分野
 長野県表彰規則3条表彰
 小林 壽夫 (佐久市)
 湯本 康幸 (千曲市)

理事長表彰

○郡市協会役員8年以上在籍し顕著な功績のあつた者
 今井 剛健 (北佐久郡立科町)
 柳澤 市子 (小諸市)
 白井 ハルノ (小諸市)

○重度障害の妻を助けた夫で他の模範である者
 太田 王彦 (小諸市)



小林 壽夫様

福田健康福祉部長

湯本 康幸様

健康福祉部長への要望

令和4年度の健康福祉部長との懇談は、新型コロナウイルス第8波のため、一堂に会することが出来ませんでした。書面により要望書を提出し、12月5日付けで回答をいただきました。内容は以下のとおりです。

要望項目及び回答

1 「障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例」の制定後の取り組みについて、実効性を求めます。

〈回答要旨〉 (障がい者支援課)

○ 「障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例」を実効性のあるものとするため、全庁を挙げて取り組んでおります。

○ 部局横断的に取組を推進するため、庁内連携会議を設置し、全庁共通目標と部局目標を設定し、障がい者就労施設からの優先調達件数の増加や屋根付きの障がい者用駐車場の設置等取組を強化するとともに、各部局間の情報共有を行っているところです。

○ 4月には当課内に障がいを理由とする差別に関する相談窓口を設置したほか、障がいを理由とする差別を解消するための第三者機関として、10月に共生社会づくり調整委員会を設置し、相談体制と紛争解決体制の整備を図っております。

○ 県民及び事業者に条例の趣旨を理

解してもらうため、様々な広報媒体や会議・イベント等のあらゆる機会を活用して普及啓発に努めてまいります。

2 障害者の立場に立った災害者支援の充実を要望します。

〈回答要旨〉

(危機管理防災課、健康福祉政策課)

○ 様々な災害に対する防災対策の計画を決定する県防災会議に、県介護福祉士会などから委員として参加いただいているところです。

○ そのほか、県の防災行政を推進するために、担当部局と関係団体等とが十分に協議を重ね、その結果を総合的にとりまとめながら進めることが重要と考えておりますので、協議への障がい者団体の参加について、健康福祉部をはじめとする関係部局に対し働きかけてまいります。また、市町村に対しても、各市町村の会議等へ参加できるように依頼してまいります。

○ 福祉避難所への直接避難の円滑な実施に当たっては、市町村が策定する避難行動要支援者の「個別避難計画」での位置付け及び対象者、対象施設の明確化が重要と考えております。

○ 「個別避難計画」の作成の促進については、今年度、県では市町村の職員向けに、全国での好事例の共有や市町村間でノウハウを学ぶ研修を実施し、計画作成支援を実施しました。

○ 福祉避難所に避難する対象者や対象範囲については、地域の実情や施設の状態により様々なケースがあることから、先進事例の共有などを通じて、市町村において「直接避難」や「個別避難計画作成」の検討が円滑に進むよう、今後も支援してまいります。

3 長野県社会福祉総合センター(仮称)の早期建設を希望する。

〈回答要旨〉

(地域福祉課)

○ 移転により各団体との意思疎通がこれまで以上に円滑に行われる環境となり、県としても県内福祉の向上に連携を密にして進めてまいります。

○ 会議室等施設面での制約があり、御不便をおかけしておりますが、日程等の調整をしていただき利用をお願いいたします。

○ 御要望の「社会福祉総合センター(仮称)」につきましては、各団体の活動状況等を踏まえた上で将来のあり方を検討してまいります。

4 身体障害者相談員の未設置市町村に対して、改善指導していただきたい。また、県として、相談員研修会を実施していただきたい。

〈回答要旨〉

(障がい者支援課)

○ 市町村における身体障害者相談員の配置状況について、令和3年12月に確認したところ、7つの市町村が配置している状況です。

○ 未配置の多くの市町村は、総合相談を行っている総合(基幹)支援センターがその機能を果たしていること、また各市町村に対して相談員配置の

要望等が寄せられたことはないとの回答でした。

○ 県としては、障がいのある方が地域で安心して生活するためには、お住いの地域で個別の障がい特性や生活状況等に応じたきめ細かな相談ができる総合的な相談体制の構築・強化が求められていると認識しております。

○ 相談員が未配置である市町村では、総合(基幹)支援センターがその機能を果たしていますので、障がいのある方にとつて、同センターがより身近で頼れる存在となるよう、引き続き地域の自立支援協議会の場などを活用しながら、相談支援に従事する職員の資質向上をはじめ、相談支援体制の機能強化について検討してまいります。

5 障害者福祉施策に係る予算の充実確保を要望する。

〈回答要旨〉

(障がい者支援課)

○ 高齢化等による社会保障関係費の増加により、国・県・市町村の財政事情は大変に厳しい状況にあり、今後は不透明さを抱えながら、より厳しさを増すことが見込まれております。

○ このような状況ではありますが、障がい者の皆様が地域で安心して暮らしていくことができるよう、国の動向を十分に把握しながら必要な予算の確保に努めるとともに、障がい者福祉施策が後退しないよう市町村とも連携して施策の推進に努めてまいります。

健康教室開催にあたって

松本市身障協会

女性部長 服部江津子

今年は、松本市主催で9月27日（火）松本市勤労者福祉センターで行いました。

松本市・安曇野市総勢68名、大勢集まっていたきとても感謝しております。

コロナウイルス感染の影響もあつたので、今年は、コロナ対策やディスタンスも考え、余裕をもって入れる大会議室を手配しました。

聴覚や視覚の方達にも一緒に楽しんでもらいたいと思ひ映画に決めさせてもらいました。もちろん音声ガイド字幕付きです。

映画のタイトルは「こんな夜更けにバナナかよ」これは筋ジストロフィーで全く動けず、車イス生活をしていた主人公の実話を元に作った作品です。障がいがあつても自分らしく生きる、地域の皆と楽しく自立生活を送っていく、主人公の生き様が面白おかしく表現されていてとても心暖まる映画



音声ガイド 字幕付き



でした。

午後は、ボッチャ体験をしました。2コート作り、指導者のもとチームに分かれて何回かやりました。

視覚の方は全く初めての体験でしたが、ガイドヘルパーさんの説明や音をたよりに上手にボールを投げていました。

今年は皆さんの御協力もあり、一日楽しく和気あいあいと過ごすことが出来ました。ありがとうございます。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

創立七十周年を迎えて想う

伊那市身障協会 竹松 猛

当協会の発足は、昭和二十六年八月に上伊那郡身体障害者福祉協会伊那町支部として結集されたのが始まりで、

昭和二十九年の市制施行に伴い、現在の「伊那市身体障害者福祉協会」が結成された。

私が協会へ入会したのは、協会創立10年後の昭和三十六年、二十歳の時に身障手帳交付と同時に会員となりました。当時は身障協会入会手続きは市役所福祉課で行われ手帳交付者は会員になる事が当たり前になっていました。現代では考えられないことです。想い出せば、私も入会して六十年の歳月が流れ五十余年会社勤めの間をみて協会の行事に参加して来ました。

昭和四十三年春、二十七歳の時に初めて定期総会に参加したところ、住居地区の支部長を頼まれ当時最年少で渋々引き受け、その後も種々の役員と重複しながら今に至っている。

昭和四十九年六月、第二十五回県身障者福祉大会が伊那市で開催、当時は2日間かけて開催された。三百人参加、地元負担金が多く、その資金捻出の為、当協会役員が手分けして「蚊取り線香」を販売した。今では考えられない五十年前の事です。

昭和五十九年、念願の夢だった協会活動拠点として待望のB型障害者センター「希望の家」完成、全会員喜びを分かち合った。

平成十三年五月、創立五十周年記念大会、記念誌「五十年のあゆみ」発刊。記念大会には県身障協会坂田理事長も出席されて盛会に行われ記念誌は県内外からも注目され希望者に無償配布した。

平成十四年、第五十三回県身障者福祉大会が当市で開催、九百名参加、会場が狭くて困惑した事が記憶に残ります。

平成二十年、協会が福祉有償運送事業立上げの為、NPO法人化設立、訳は、社協が中止のため行政からの薦めもあり奮起、運転手（会員8名）は資格取得して障害者・高齢者の足として大変高評価を得た。然し、平成三十一年、私も含めた役員や運転手の高齢化のため、この事業は惜しまれつつ平成最終日ともに解散式を行った。

NPO法人事業は立上げから事業報告、解散清算手続き業務は複雑で行政書士依頼を考えたが資金が無いため苦労しながら自分達で全て行った。令和元年共に、伊那市身障協会は任意団体として再発足して現在に至って活動しています。

障害者福祉向上と組織拡大、会員の親睦を図るため身障者協会設立に尽力された先人の並々ならぬ苦労と七十年の歴史を歩まれた先輩諸氏の努力を偲ぶ時、今こうして幸せに暮らせる有難さを創立七十周年を回顧しながら想いをあらたにしました。



70年続く赤い羽根共同街頭募金協力事業

第25回長野県障がい者文化芸術祭

第25回長野県障がい者文化芸術祭 in ながのが 9月24日(土)～25日(日)、サンアップルで開催されました。

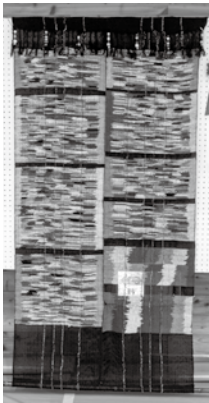
また「ウェブ展示会」も現在開催されています。

どなたでも気軽にPC・スマートフォンでご覧いただけます。

<ホームページアドレス> <https://nagano-bungeisai.jp>

〇知事賞受賞のみなさん

- | | | |
|------|--------|--------|
| 絵画の部 | 竹内 一 貴 | (駒ヶ根市) |
| 手芸の部 | 山内 咲 空 | (池田町) |
| 工芸の部 | 小林 五 郎 | (飯山市) |
| 書道の部 | 竹花 汐 音 | (上田市) |
| 写真の部 | 太田 登 | (飯田市) |
| 文芸の部 | 相馬 朋 未 | (長和町) |



【工芸】小林 五郎
「さをり織り
タペストリー」



【写真】太田 登
「気合を入れて」



【手芸】山内 咲空
「レインボー七福神」



【絵画】竹内 一貴
「無題」



【書道】竹花 汐音
「共に歩む」

文芸部門 自由詩「雨、あじさい」

雨がふる
 ザーザーと大きな音を出してふっている
 雨が、あじさいにあたってぬれている
 あじさいの前には誰もいない
 雨にぬれたあじさいが泣いている
 ポタッポタッ
 花と葉っぱからしずくが地面に落ちる
 さみしいのかなあ
 前は、大人や子供達がたくさん来ていて楽しそうにおしゃべりしたり遊んだりしてにぎやかだったのに
 今は、誰も来ないからさみしくて泣いているのかな
 暗くなった世の中、つらい事不安がふえた世の中
 あじさいといっしょに私ものりこえていくしかないか

【文芸】相馬 朋未
「雨、あじさい」

あ と が き

令和五年の新年を、清々しい心
持ちでお迎えのこととお慶び申し
上げます。

ウィズコロナと言われる様にな
りましたが、とにかくウイルスを
寄せつけない徹底した予防の下、
皆様お一人おひとりが健康な一年
を送って頂きます様にと、年頭に
あたり御祈念申し上げます。

編集委員長 丸山 美栄子

障がいのある方々と共に成長し 社会に貢献していきます

業 務 内 容

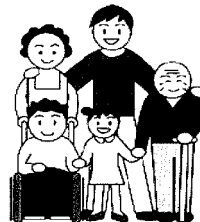
- 印刷 広報誌/記念誌/自費出版/文集/チラシ・パンフレット など
- 縫製 被服/のぼり旗/バッグ/帽子/各種防災用品 など
- アクアリウム メンテナンス付き観賞魚水槽のリース



社会福祉法人 **ながのコロニー**
 指定就労継続支援(A型) **長野福祉工場**
 事業所
 〒381-8580 長野市徳間1443 TEL 026-296-1411
<http://nagano-colony.or.jp>

収益事業に ご理解とご協力を

日身連事業所は、各町内会・自治会のご協力を得て、
 回覧カタログによる収益事業と、皆様の福祉会から
 の「お茶」販売で県身障協と地元福祉会の財源確保の
 お手伝いをさせて頂いております。
 宜しくお願い致します。



日身連収益事業所

東京都渋谷区代々木5-57-6
 所長 佐藤 宏
 フリーダイヤル 0120-450-450